

2023年卒
Vol.06

4月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年4月発行)

2023年卒の採用広報開始から1カ月。コロナ禍をきっかけにオンライン中心の活動が広がるなかで、就職戦線はどのように進んでいるだろうか。キャリアス就活・学生モニターを対象に、就職活動状況について調査を行った。前年同期調査や先月(今年3月調査)の結果とも比較しながら、現状を分析する。

1. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は22.6社。前年同期調査(24.4社)を約2社下回る
- セミナー参加社数の平均は、オンライン13.0社、会場型3.6社。いずれも前年より増加

2. 企業セミナーの参加意向

- 「できるだけ参加したい(対面/ライブ)」68.3%、「動画(オンデマンド)希望」26.5%
- 参加して不快だったこと、「内容に乏しい」「説明がわかりにくい」「時間が長い」の順

3. 選考試験の受験状況

- ES提出社数は平均11.4社で前年より減少。面接社数は前年を上回る(5.0社→5.4社)
- WEB面接が主流も、対面面接が前年より増加(54.2%→56.6%)

4. 4月1日現在の内定状況

- 内定率は46.5%。前年同期実績(38.2%)を8.3ポイント上回る。理系は5割超
- 就職先を決めて活動を終了したのは全体の1割強(15.7%)。大半が就職活動を継続

5. 内定を得た企業の業界

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中(32.8%)。理系は4割強

6. 就職活動継続学生の動向

- 現時点の志望業界1位「情報処理・ソフトウェア」、2位「インターネットサービス」
- 今後の方針、「新たな企業を探して幅を広げる」前年より増加(31.7%→34.6%)

7. SNS利用状況

- 就活でのSNS利用が定着。大半が活用し、最も利用率が高いのは「LINE」(44.7%)

8. 就活の軸の決定度合い

- 現時点で「明確に決まっている」(44.7%)、「何となく決まっている」(43.5%)

9. 魅力を感じる採用形態

- 「総合職採用(メンバーシップ型)」が最多(47.8%)、「ジョブ型」は16.0%

※「内定」には、内々定を含む

調査概要

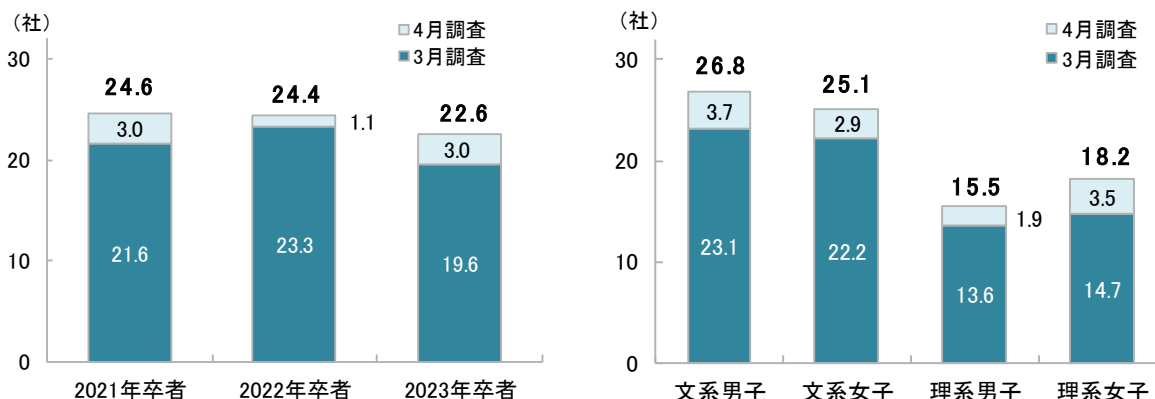
- 調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,265人(文系男子439人、文系女子369人、理系男子326人、理系女子131人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2022年4月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

1. エントリー社数とセミナー参加社数

企業の採用広報開始から 1 カ月が経過した。2023 年卒者の就職活動はどのように進行しているだろうか。4 月 1 日時点の活動量から見てみよう。

一人あたりのエントリー社数の平均は 22.6 社。この 1 カ月で 3 社増えたが、3 月調査に引き続き前年同期実績を下回り、企業を絞り込む傾向が強まっている。文理男女別で確認すると、理系は男女とも 20 社未満で、文系に比べ活動量が少ないことがわかる。理系男子は前月からの増加も少なく、絞り込んで活動している様子が見て取れる。

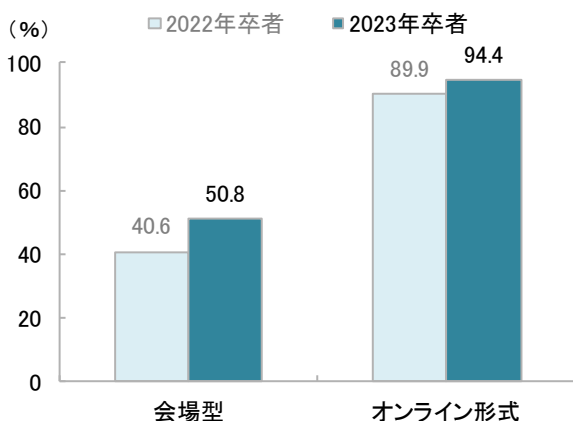
＜エントリー社数＞



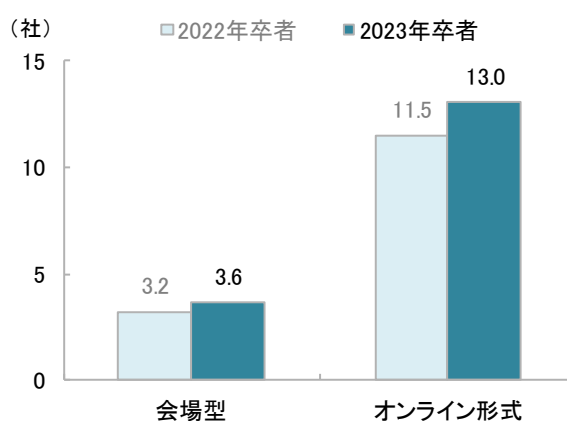
企業セミナー（会社説明会）の参加状況を、開催形式ごとに確認した。「会場型」に参加経験がある学生は前年同期より 10 ポイント以上増加し、5 割を超えた (40.6%→50.8%)。「オンライン形式 (WEB セミナー)」の参加経験者も前年より増加し、全体の 9 割超 (94.4%) に上る。

参加社数もそれぞれ前年同期を上回り、積極的に参加している様子が見えてくる。会場型が平均 3.6 社で、オンライン形式は 13.0 社。オンラインが会場型の 3 倍以上に上り、コロナ禍での企業研究がオンライン中心に進んでいることがわかる。

＜企業セミナー 参加・視聴経験＞



＜企業セミナー 参加・視聴社数＞



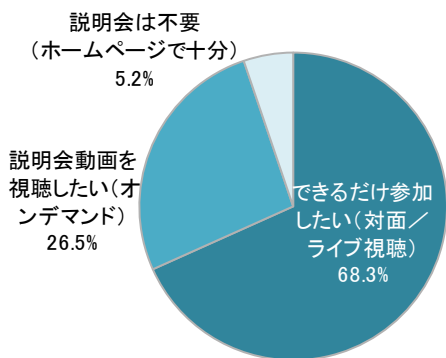
＜企業セミナー参加・視聴社数／属性別＞

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	3.6	3.2	4.4	3.6	2.8	2.6
オンライン形式視聴社数	13.0	11.5	14.2	14.7	10.5	10.5

2. 企業セミナーの参加意向

本選考応募 (ES提出など) にあたって、セミナーに参加したいか否かを尋ねた。「できるだけ参加したい (対面/ライブ視聴)」が7割近くを占め (68.3%)、大半がリアルタイムでの参加を希望。「その場で質問したい」「社員のやり取りから社風を掴みたい」などの声が挙がった。一方、動画での視聴を希望する学生も4人に1人に上り (26.5%)、必ずしもリアルタイムを望む学生ばかりではないようだ。

＜本選考応募企業のセミナー参加意向＞

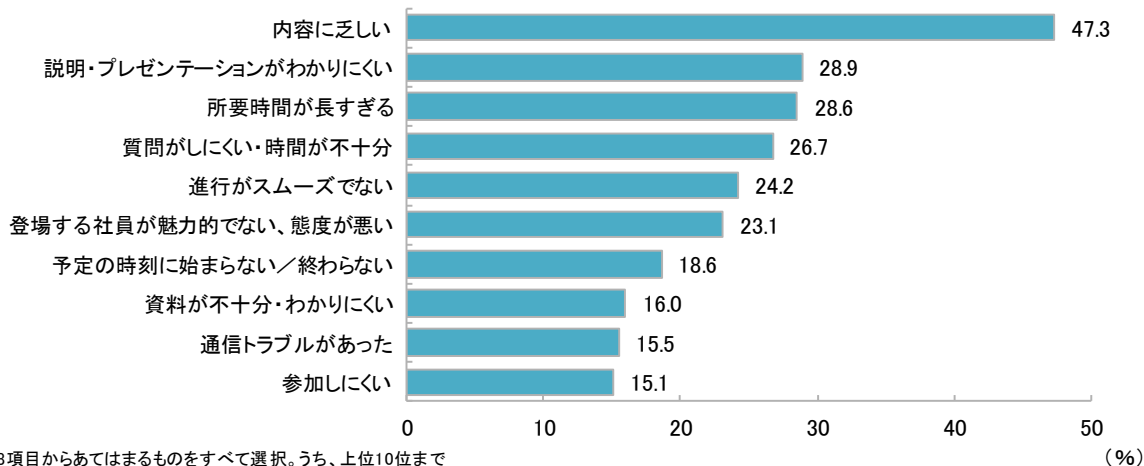


■学生の声

- リアルタイムでの説明会ならチャットなどで気軽に質問ができ、疑問をすぐに解消できる。 <文系男子>
- 他の学生の質問も参考になることがあるし、その対応で企業の雰囲気わかることもある。 <文系女子>
- 社員同士のやり取りを聞くことで、何となくではあるが職場の雰囲気が伝わる。 <文系女子>
- 大学院生は研究活動で時間が取れない時がある。オンデマンドであれば空いた時間に視聴することができる。 <理系男子>
- 会社説明会が満席だった時のためにオンデマンド配信があると助かる。 <理系女子>

実際に参加 (視聴) したセミナーへの感想とあわせて、不快に思ったことを複数回答で尋ねてみた。最も多いのは「内容に乏しい」で、半数近くが選んだ (47.3%)。「説明がわかりにくい」(28.9%)、「時間が長すぎる」(28.6%) と続く。

＜企業セミナーで不快に思ったこと＞



■実際に参加したセミナーへの感想

【印象がよかったもの】

- 説明会と座談会が同時に行われ、事業への理解と社員の雰囲気の両方を知ることができた。 <WEB/理系男子>
- 質問応答の時間が多く、会社の悪い点も包み隠さずお話しされ、信頼できると感じた。 <WEB/文系男子>
- 聞いている学生の顔や反応をしっかりと確認しながら話していた。 <会場型/文系女子>

【印象が悪かったもの】

- 内容がかなり浅く、ホームページから手に入る情報が多かった。 <WEB/文系男子>
- リアルタイムにも関わらず質問をほとんど取り上げてもらえず、録画と変わらなかった。 <WEB/文系女子>
- 説明が長過ぎて何が重要か分かりにくかった。そのため、睡魔と戦うのに必死だった。 <会場型/理系女子>

3. 選考試験の受験状況

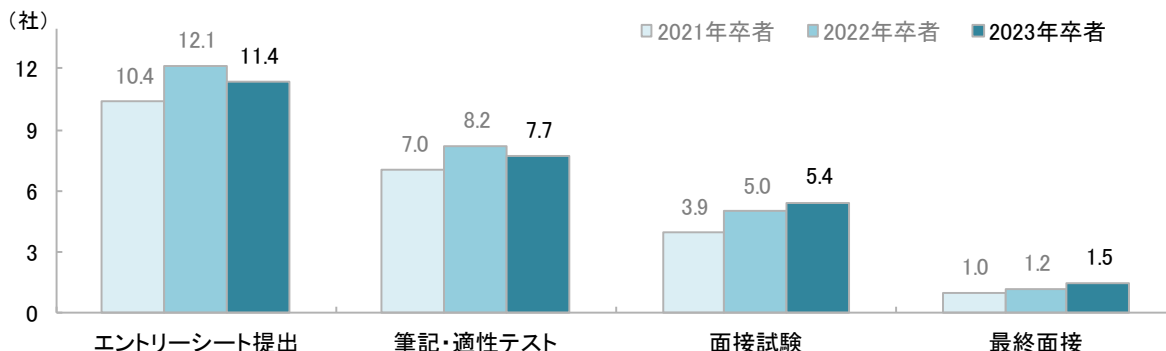
選考試験（本選考）の受験状況を確認したい。調査時点で、エントリーシート（ES）の一人あたりの提出社数は平均11.4社で、前年同期（12.1社）をやや下回る。筆記・適性テストも前年より少なく（8.2社→7.7社）、エントリー社数の減少に伴って減少した。一方、面接試験の受験社数は前年平均5.0社から5.4社へと増加しているが、これは選考のペースが前倒しになっているためと考えられる。最終面接を経験した学生は選考解禁2カ月前で早くも半数を超えている（57.2%）。

面接試験経験者に対し、面接形式ごとの受験状況を重ねて尋ねると、WEB面接は9割後半で（96.9%）、面接の多くがオンラインで行われていることがうかがえる。対面での面接経験者は半数強で前年より2.4ポイント増加した（54.2%→56.6%）。社数についてもWEB面接が多いが、前年同期よりやや減少（5.0社→4.6社）。対面面接は1.9社で、前年（1.8社）をやや上回る。オンラインを主軸にしながらも、対面での面接機会を取り入れる企業が増えているようだ。

<選考試験の受験状況>

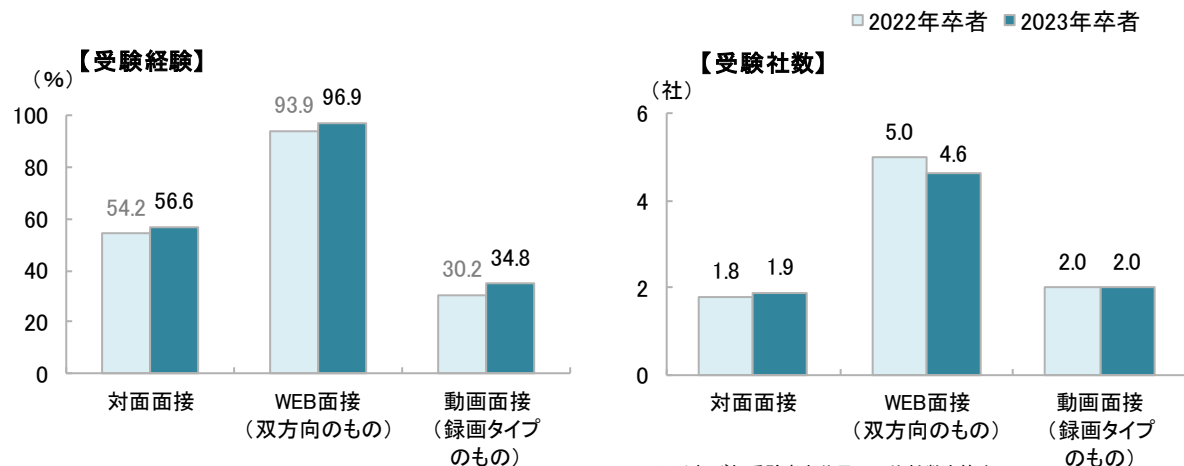
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
エントリーシート	92.3	91.6	92.5	95.4	89.5	90.1
筆記・適性テスト	90.7	90.3	90.6	92.1	90.5	87.8
面接試験	85.4	83.4	84.7	88.9	82.5	85.5
最終面接	57.2	49.4	50.6	56.4	65.3	61.8

<選考試験の受験社数>



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、受験者を分母に算出

<形式ごとの面接受験状況>



※面接試験経験者が分母

※1つの企業で複数の形式で受けた場合は、それぞれの形式に1社とカウント(例:1次がWEB、2次が対面)

※それぞれ受験者を分母に平均社数を算出

4. 4月1日現在の内定状況

4月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の46.5%。先月(3月1日)の28.6%から1カ月間で17.9ポイント増え、4割を大きく超えた。前年同期(38.2%)に比べ8.3ポイント高く、かなり早いペースで進行。採用広報解禁後に就職戦線が一気に加速した様子が見て取れる。文理男女のいずれも前年同期実績を上回るが、理系は男女とも5割を超え進行の早さが顕著。

内定を得た企業の7割(71.3%)がインターンシップ(※)に参加した企業で(グラフは次ページに掲載)、前年(70.4%)より比率が高まった。インターンシップで接点を持った学生を囲い込もうとする動きが読み取れる。

内定取得学生のうち就職先を決めて就職活動を終了したのは33.7%。前年同期(25.9%)より多いものの、内定取得後も6割以上は就職活動を続けていると回答した。ただし、理系男子は内定取得者の過半数が就活を終了するなど、文理での差が目立つ。

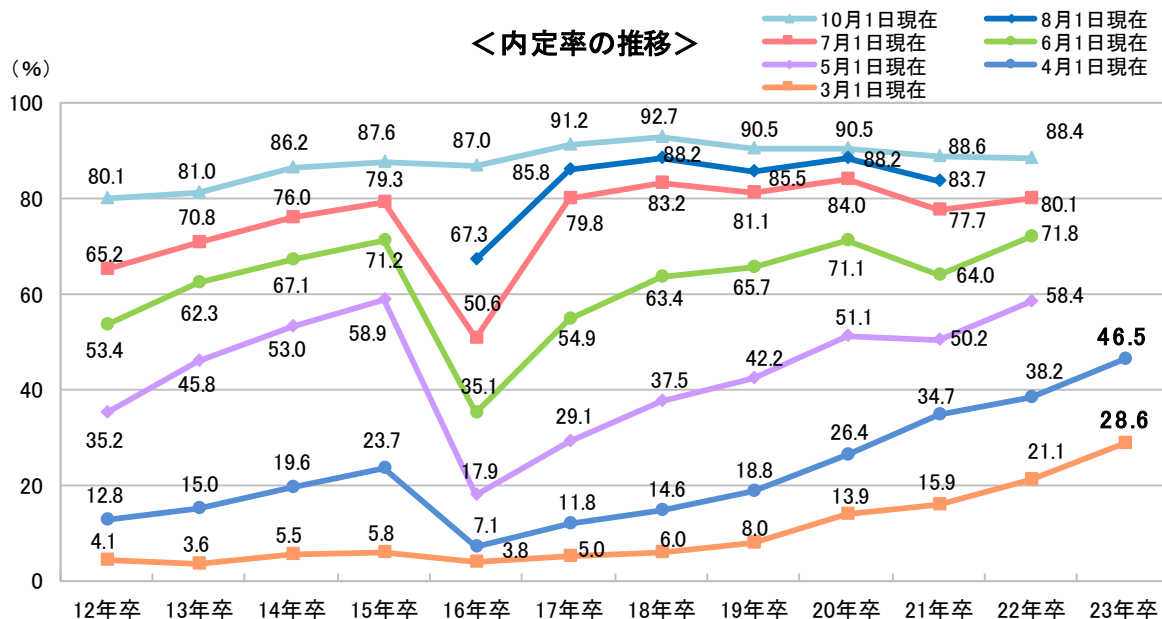
(※1日以内のプログラムも含めて調査)

<4月1日現在の内定状況>

		(%)				
		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		46.5 (38.2)	38.7 (32.2)	44.7 (36.2)	54.9 (43.6)	56.5 (48.9)
内定なし		53.5 (61.8)	61.3 (67.8)	55.3 (63.8)	45.1 (56.4)	43.5 (51.1)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	33.7 (25.9)	19.4 (16.9)	23.0 (18.9)	53.1 (33.3)	43.2 (41.8)
	活動は終了したが複数内定保持	4.4 (5.0)	5.9 (1.5)	3.6 (6.8)	3.9 (7.5)	4.1 (3.0)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.3 (0.4)	0.0 (0.0)	0.0 (0.0)	0.6 (0.7)	1.4 (1.5)
	就職活動継続	61.6 (68.7)	74.7 (81.6)	73.3 (74.2)	42.5 (58.5)	51.4 (53.7)

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数/平均		1.8 (1.6)	1.8 (1.7)	1.7 (1.6)	2.0 (1.7)	2.0 (1.5)

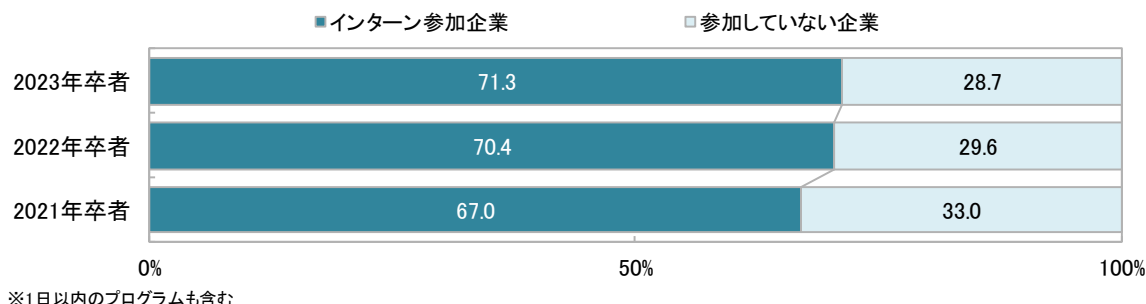
※ () 内は前年(4月1日現在)の数値



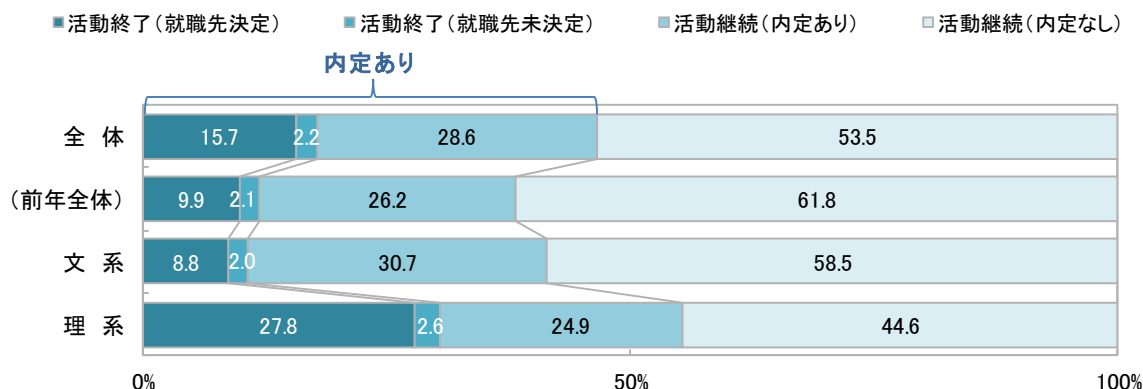
※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17~23卒は6月 ※15年卒以前と22卒は8月のデータはなし

モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見ると、調査時点で就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は 15.7%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (2.2%) を合わせた就活終了者は 2 割弱となる (計 17.9%)。なお、理系学生において終了者の割合が高く、複数内定保留者も合わせると 3 割に達する (計 30.4%)。

＜内定を得た企業のインターン参加＞



＜活動状況の分布＞



5. 内定を得た企業の業界

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。「情報処理・ソフトウェア」が 32.8% で最も多いが、次点の「建設・住宅・不動産」「調査・コンサルタント」(ともに 17.0%) より 15 ポイント以上高く、内定が集中している。文系理系ともに「情報処理・ソフトウェア」が 1 位で、文理問わず多くの内定が出ていることがわかる。理系においては 4 割超と (42.7%)、より集中度が高い。

＜内定を得た業界 (上位 5 業界) ＞

全体		文系		理系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ① 32.8	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 25.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト 42.7		
2	建設・住宅・不動産 ② 17.0	調査・コンサルタント 17.9	建設・住宅・不動産 24.1		
	調査・コンサルタント ③ 17.0	その他サービス 14.3	電子・電機 17.0		
4	人材サービス・人材紹介・人材派遣 ⑧ 10.0	専門店 13.7	調査・コンサルタント 15.8		
5	電子・電機 ⑩ 9.7	建設・住宅・不動産 11.6	人材サービス・人材紹介・人材派遣 10.7		
			機械・プラントエンジニアリング 10.7		

※○の中の数字は前年同期調査の順位
※「その他サービス」= 介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の 82.1%）の動向を確認したい。

現時点での志望業界を 40 業界の中から 5 つまで選んでもらったところ、最も多いのは「情報処理・ソフトウェア」(17.5%) で、ここに「情報・インターネットサービス」(15.9%) が続く。序盤から引き続き IT 業界の人気は変わらず、とりわけ男子において志望者が多い。

文理別に見ると、文系は「銀行」の順位が高く、文系男子は 1 位、文系女子で 2 位。理系は IT 以外ではメーカーが上位に多く、男子は 2 位に「電子・電機」、3 位が「自動車・輸送用機器」。理系女子は「水産・食品」「医薬品・化粧品」「素材・化学」に人気集中している。

<就職活動継続者の志望業界（上位 10 業界）>

※5つまで選択 (%)

	全 体		文系男子		文系女子		理系男子		理系女子	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	17.5	銀行	23.7	マスコミ	18.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	25.6	水産・食品	40.0
2	情報・インターネットサービス ③	15.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	20.0	銀行	14.8	電子・電機	16.9	医薬品・医療関連・化粧品	31.1
3	水産・食品 ④	15.4	情報・インターネットサービス	18.6	官公庁・団体	14.1	自動車・輸送用機器	16.4	素材・化学	25.6
4	銀行 ②	14.5	調査・コンサルタント	15.1	情報・インターネットサービス	13.1	情報・インターネットサービス	15.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	17.8
5	建設・住宅・不動産 ⑥	13.1	建設・住宅・不動産	13.1	建設・住宅・不動産	13.1	水産・食品	15.9	情報・インターネットサービス	14.4
6	官公庁・団体 ⑤	12.9	商社（専門）	13.1	水産・食品	12.4	素材・化学	15.9	官公庁・団体	14.4
7	調査・コンサルタント ⑬	11.6	官公庁・団体	12.9	商社（専門）	11.7	建設・住宅・不動産	15.0	電子・電機	12.2
8	素材・化学 ⑦	10.9	運輸・倉庫	12.9	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	8.5	機械・プラントエンジニアリング	14.0	機械・プラントエンジニアリング	10.0
9	商社（専門） ⑭	10.5	商社（総合）	12.9	医薬品・医療関連・化粧品	8.5	調査・コンサルタント	12.6	建設・住宅・不動産	8.9
10	医薬品・医療関連・化粧品 ⑫	10.2	水産・食品	11.1	ホテル・旅行	8.5	医薬品・医療関連・化粧品	12.1	商社（専門）	8.9
					その他サービス	8.5			エネルギー	8.9

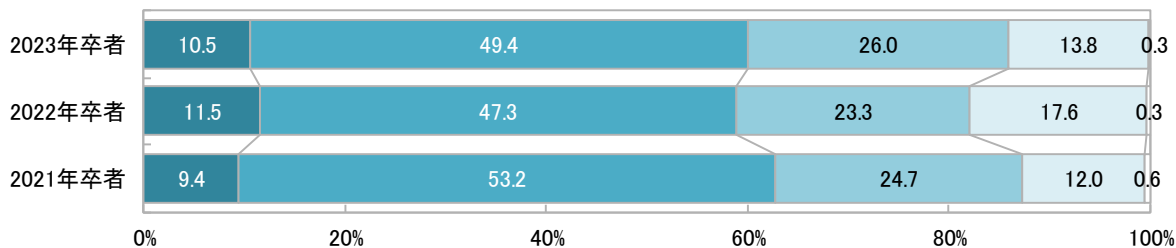
※○の中の数字は前年同期調査の順位

※「その他サービス」=介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

内定を持ちながら就職活動をしている学生（全体の 28.6%）に、内定企業をどう位置付けているのかを尋ねた。「満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う」と、ほぼ入社を決めているのは約 1 割（10.5%）。「それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う」という回答が約半数で最も多く（49.4%）、入社に前向きながらも、本命企業の結果次第という学生が多いことがわかる。

<内定を得ている企業の位置づけ>

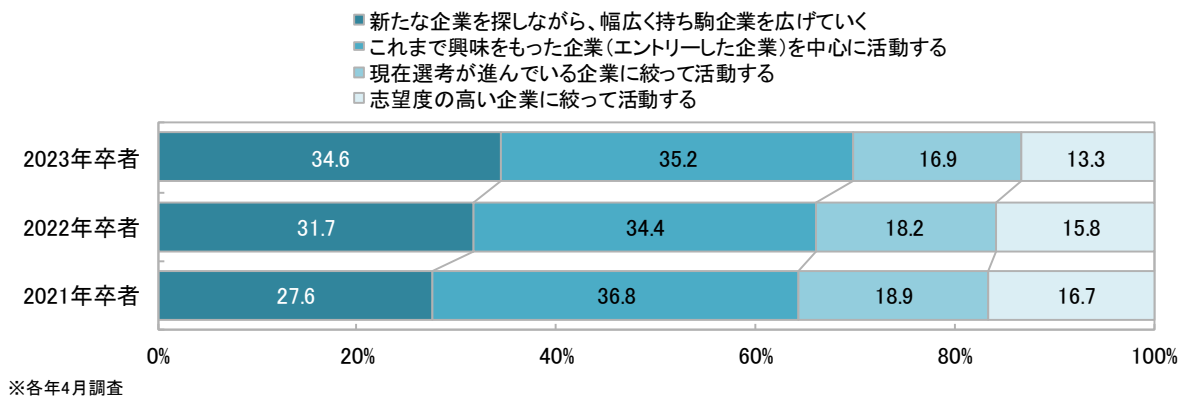
- 満足度が高く、納得感もあるので、この企業に入ると思う
- それなりに満足しているので、他に内定が出なければ納得して入ると思う
- 満足度は高くないが、他に内定が出なければ、この企業に入っても構わない
- あくまで押さえであり、実際にこの企業に入ることはないだろう
- その他



※各年4月調査

内定保持者を含め就職活動を継続している学生 (全体の82.1%) に、就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ねた。最も多かったのは「これまでに興味をもった企業 (エントリーした企業) を中心に活動する」(35.2%) だが、ほぼ同率で「新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく」が続く。前年同期よりポイントが増加しており (31.7%→34.6%)、受験企業を広げることを見視野に入れ、意欲的に企業探しを行う姿勢の学生も少なくない。

＜今後の就職活動の方針・戦略＞

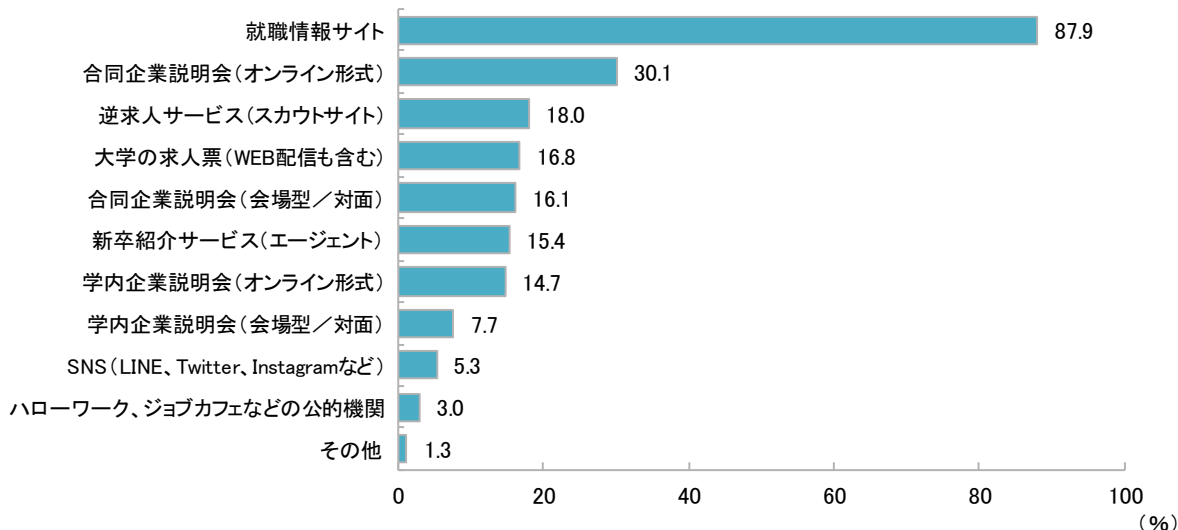


現在選考を受けている企業平均は 6.1 社で、前年 (6.6 社) より 0.5 社少ない。今後のエントリー、ES 提出の予定社数も前年同期をやや下回るが、企業セミナーは前年調査を上回る (3.6 社→3.9 社)。

今後のエントリー予定社数を 1 社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段 (ツール) を尋ねると、「就職情報サイト」が 9 割近くに上り圧倒的に高い (87.9%)。ここに「合同企業説明会 (オンライン形式)」(30.1%) が続く。他にも、「逆求人サービス」(18.0%)、「新卒紹介サービス」(15.4%) などの就職活動サービスを利用するという学生も一定数みられる。

	全 体	(2022年卒者)	(2021年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	6.1	6.6	6.2	7.6	6.1	4.4	4.4
今後のエントリー予定社数	5.0	5.2	4.6	6.8	4.7	3.1	3.4
今後の企業セミナー参加予定社数	3.9	3.6	2.8	4.6	4.2	2.6	2.8
今後のエントリーシート提出予定社数	5.0	5.2	4.6	6.3	4.9	3.4	3.3

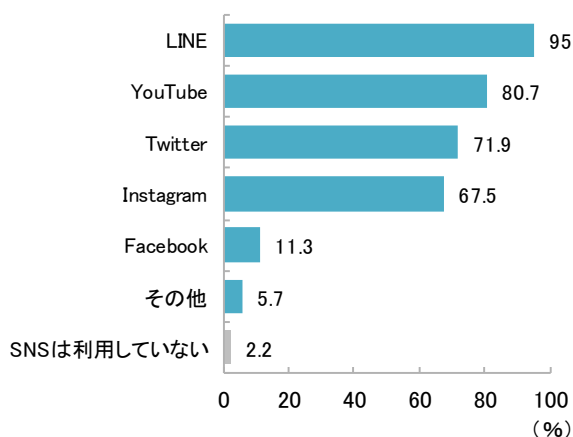
＜新たな企業を探す手段＞



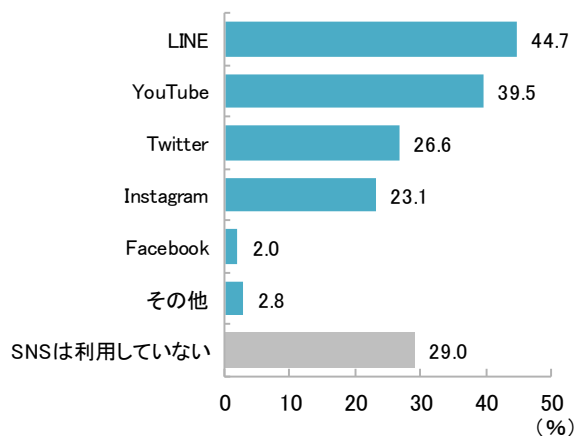
7. SNS 利用状況

就職活動の情報収集手段として、SNS の活用も定着しつつある。「就職活動で SNS は利用していない」は約 3 割にとどまり (29.0%)、大半の学生が利用していることがわかる。最も利用率が高いのは「LINE」で、4 割強に上る (44.7%)。企業の公式アカウントからの情報収集や、応募企業からの連絡ツールとして利用するケースが多いようだ。「YouTube」も 4 割近くに上り (39.5%)、動画を通じて企業研究などを進めているのだろう。日常生活での利用率の高いものほど、就職活動での利用率も高く、様々な手段で情報収集を行っていることが表れている。

<日常生活で利用しているSNS>



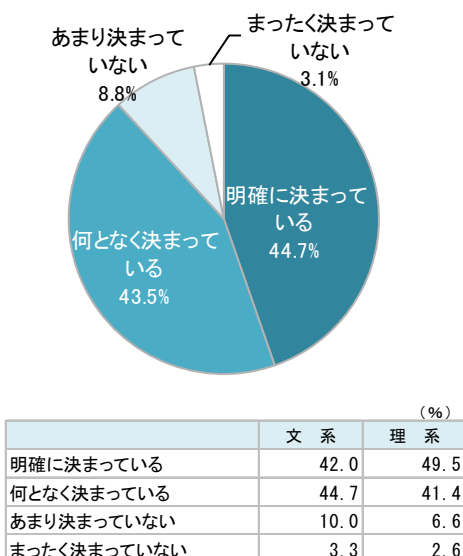
<就職活動で利用しているSNS>



8. 就活の軸の決定度合い

現時点で、就職活動の軸や、企業選びの基準がどの程度明確になっているかを尋ねた。「明確に決まっている」という学生が最も多く、4 割強 (44.7%)。「何となく決まっている」という学生も同じく 4 割強 (43.5%)。本選考に応募する企業を選定するため、また、エントリーシート記入や面接に備えて、軸を固めていった学生が多いことが推測される。ただし、就職活動が進むにつれ、迷いが生じている学生や、最終的な入社企業を決めるための基準を決めかねているケースも少なくないようだ。

<就活の軸の決定度合い>



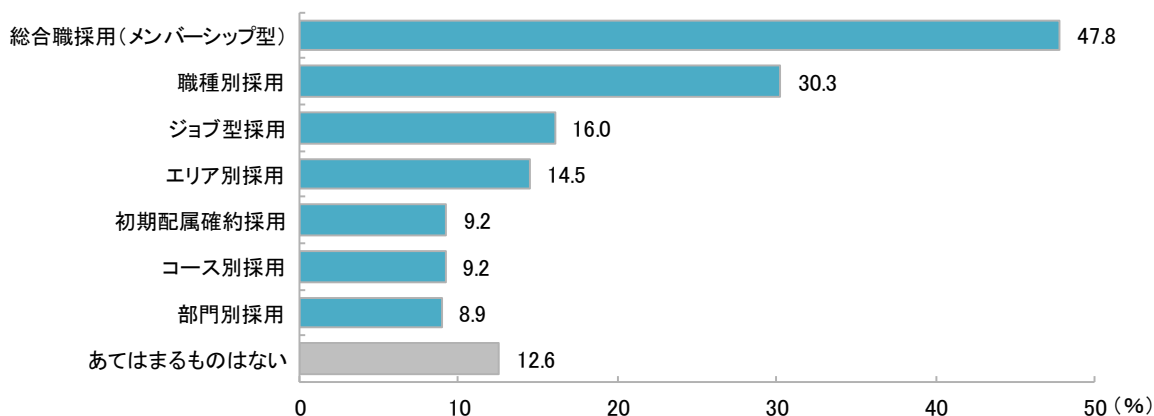
■学生の声

- 「成長環境」と「貢献実感」を軸に就職活動を進めているが、比較的多くの会社があてはまるため、絞り切れない軸を掲げてしまった実感がある。 <文系男子>
- 就職活動の軸は比較的確になっているが、それにあまりあてはまらない企業も見ている。 <文系女子>
- 会社の規模、事業内容など注目するポイントは多数あるが、最終的には社員の方と話した印象など、フィードバックに頼っている。 <文系男子>
- 社会貢献をしたいという軸はありますが、志望企業によって変えることもあります。 <文系女子>
- 面接で話すような建前の軸はあるが、実際に複数内定を得た場合に、入社企業を決める明確な企業選びの基準が定まっていない。 <文系女子>
- 明確に決まっていると思っていた時期はあったが、本当にこのままでいいのか覚悟がない。むしろその軸に不安を憶えている。 <理系男子>

9. 魅力を感じる採用形態

新卒採用においてジョブ型を導入する企業は増加傾向にあるが、学生がどのような採用形態に魅力を感じているのかを尋ねた。最も多いのは「総合職採用（メンバーシップ型）」で、約半数が選んだ（47.8%）。文系男子では 6 割近くに上る（58.5%）。幅広い業務を経験したい、働きながら適性を見極めたいといった意見が多く挙がった。次に多い「職種別採用」は文理で差が見られ、文系が 2 割台なのに対し、理系は約 4 割（39.3%、40.5%）。「ジョブ型」は 16.0%と限定的だが、理系男子で 2 割台と高め（23.9%）。メンバーシップ型とジョブ型や職種別採用の両方に魅力を感じる学生や、採用形態にはあまりこだわりのないという学生も、一定数見られた。

＜魅力を感じる採用形態＞



	(%)				
	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
総合職採用(メンバーシップ型)	47.8	58.5	49.3	35.6	40.5
職種別採用	30.3	22.6	28.7	39.3	40.5
ジョブ型採用	16.0	16.9	10.6	23.9	9.2
エリア別採用	14.5	10.7	27.9	6.1	12.2
初期配属確約採用	9.2	9.3	7.0	10.7	13.7
コース別採用	9.2	8.0	9.8	11.7	7.6
部門別採用	8.9	7.1	7.9	12.9	10.7
あてはまるものはない	12.6	13.4	11.7	12.6	14.5

■希望する採用形態について

- ポテンシャルで採用してもらうことができ、今後のキャリアの選択肢も広い総合職がよい。 <文系女子>
- 自分の適性に合っているか不安なため、総合職採用の方がよいと考えている。 <文系男子>
- 総合職が最も年収と将来が安定していると思うから。 <文系男子>
- 特定の職種でプロフェッショナルになれる職種別採用と、様々な職種を経験して管理職を目指せる総合職の両方に魅力を感じる。 <文系男子>
- 総合職だと向いていない職種についてのことが怖い。やりたい職種なら、実際にできるかどうかは別にしてモチベーションも高く働ける。 <文系男子>
- 自分が働きたい職種につけることが重要だと感じる。 <理系男子>
- 希望と異なる部門に配属されてしまうと、自身のキャリアの礎が意図しないものになってしまうので、初期配属の部門・職種などが確約されることが好ましい。 <理系女子>
- 将来はエキスパートを目指したい私にとっては、職種別採用があるととても良い。 <文系女子>
- 企業によって求める人材の種類は異なると思うので、なぜその採用方法なのかが明記されていれば問題ない。 <理系男子>